

幕末へタイムスリップ

時空を越え
歴史ロマンが
今よみがえる



香川県で唯一現存する武家屋敷

HAYASHI MOTOME'S RESIDENCE

多度津藩家老屋敷 林求馬邸



由来

この屋敷は、1867(慶応3)年に建てられた武家屋敷であり、約160年の歴史をもちます。多度津藩6代目藩主京極高典(たかみさ)公は、多度津町内の家中(かちゅう)にある多度津陣屋の藩邸に住んでおりました。江戸時代の終わり頃、日本中が不穏(ふおん)な情勢の中、外国の軍艦の攻撃があった場合の避難場所として、地勢的に安全な奥白方の地に藩邸を建てようとした。

その藩邸の工事に先立ち、350石取りの国家老(くにがろう)であった林求馬(はやしとめ)が、藩邸工事の陣頭指揮を執る場所として奥白方のこの地に家老屋敷を築いたのがこの林求馬邸です。

ところが、翌1868年に明治維新・文明開化の時代となり、攘夷運動も驚散したため多度津藩の陣屋移転計画も頓挫し、この家老屋敷だけがこの奥白方に残されたという訳です。

求馬の子、孫、曾孫と3代にわたって実際に住居として使用されてきており、山里の地にあるため、戦災にも遭わず、宅地開発の波にも洗われず、約160年を経ってもほぼ建築当時の姿を保ち、いわば「基本のタイムカプセル」です。(多度津町指定有形文化財)

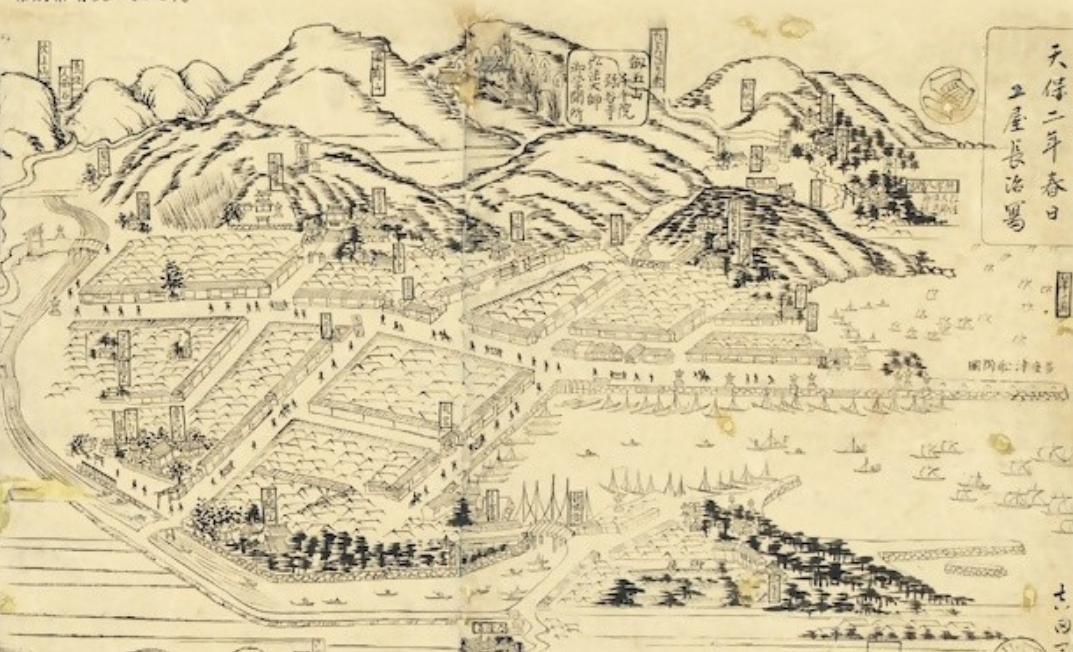
造りのあらし

1867(慶応3)年、広さ1,646㎡の敷地に白壁の塀で囲んだ入母屋造(いりもやづくり)の屋敷が建てられました。

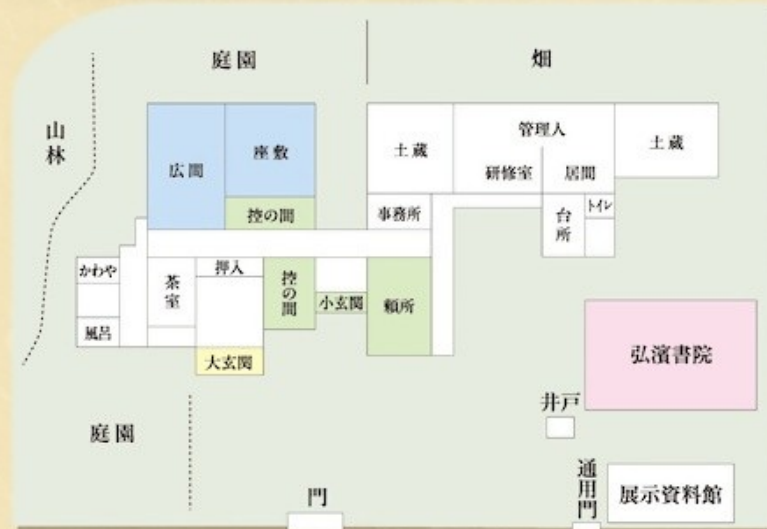
広間・座敷・控の間などが、一つ一つ独立しないで互いに連絡されて建てられており、様式は書院造(しやういんづくり)で、近世の武家屋敷を継承しています。

玄関の屋根は、数棟がきか型につながり、正面は入母屋造(いりもやづくり)で、全て瓦葺きとなっています。その鬼瓦の背の高さが、棟の高さと同じで、一般商家の造りと異なっています。林家の家紋である「鷹羽の裏紋」が鬼瓦に刻まれています。

庭園は、北手の山々を借景として取り入れており、秋の入陽(いりひ)は格別素晴らしいものです。



邸宅



大玄関

「大玄関」は、殿さまが御成りのときの御用玄関として造られたもので、従者は向かって右側にある「小玄関」が使われていました。

広間・座敷

来客との対面や、会議を開くための部屋。各部屋の欄間(らんま)には透彫(すかしぼり)がいてあり、天井は格天井(こうてんじょう)といい、太い木を井桁(いげた)状に組み、上に板を張ったもので、仏教寺院の影響があり、家老格に相応しいものです。

座敷の上段の間(左)の背後には床の間と違い欄を設け、右側の調台構え(ちょうだいぐみえ)と相対し、広縁(ひろえん)に向かって構えています。



控の間・小玄関・頼所



控の間は2つあり、一つは奥座敷に隣接した部屋。もう一つは大玄関の右にある部屋である。奥座敷に隣接した部屋では家来の武士が待機し、大玄関右にある部屋は、お側衆、家中、護衛の侍などが控えていた部屋だと推測されます。

●小玄関…家来の武士や従者が出入りしたところ。
●頼所(たのしよ)…一般民衆の意見を聞くところ。

弘濱書院



林求馬の叔父で、先代の多度津藩家老である林良斎は、1846(弘化3)年に多度津の堀江に私塾「弘濱書院(ひろはましょいん)」を開き、藩士や一般子弟の教育に力を入れました。昭和61年に多度津文化財保存会が、この由緒ある建物を林求馬邸内に新築復元したものです。

林良斎は、大塩平八郎の私塾「洗心洞(せんしんどう)」で大塩平八郎から教えを受けており、弘濱書院には、大塩平八郎や池田草庵などの多くの学者と林良斎との交流を示す資料などを展示しています。

展示資料館

展示資料館は、なまこ壁の蔵造りの建物で、「年中行事図屏風」や谷文晁の「龍昇天の図」などの書画や林家ゆかりのものなどを展示しています。



文化財・美術品

邸内には、林家が収集した多くの文化財・美術品があります。
衝立の岡本秋暉画「牡丹と孔雀」をはじめ、藩主より拝領した備前焼の獅子、
谷文晁画、太田蜀山人の絵画、大塩平八郎、池田草庵、頼山陽、
佐藤一斎などの著名な儒学者の書のコレクションを展示しています。



岡本秋暉「牡丹と孔雀」(衝立画・表面)



松田蘇雪「笛吹貴紳と暮漢」
(衝立画・裏面)

岡本秋暉(おかもとしゅうき)

1807(文化4)年～1862(文久2)年、江戸時代後期から末期に活躍した絵師です。主に花鳥画、特に孔雀を得意とし、「若冲の鶏」「光起の鶏」「狙仙の猿」などと並んで、「秋暉の孔雀」と評されます。谷文晁、渡辺華山、橋本山江、南画の大家が没した幕末期の江戸で、四大家の一人に数えられました。



作者不明「年中行事図屏風」

この屏風は、江戸期の庶民の年中行事を、月ごとに描いたものです。



葛飾北斎「唐大人図」

葛飾北斎は版画の風景画以外に、肉筆の美人画や武者絵、挿絵・絵手本など幅広く手がけており、当屋敷にも北斎の落款のある作品があります。



作者不明「唐画人物屏風」



作者不詳ですが、画面の雪の切り方に狩野派の特徴が出ています。中央左に桜、右に紅葉が描かれ、左上に春の情景、右下に秋の情景が配されています。

作者不明
「源氏物語屏風」



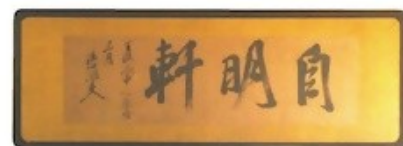
大塩平八郎
「弗慮胡獲弗為胡成 後素書」(書軸)

この書軸は本施設中、最も有名な展示物です。大塩平八郎が愛弟子の林良斎を訪ねて多度津に来たときに、揮毫したものといわれています。
「慮(おもんはか)らざれば胡(なん)ぞ獲(え)ん。為(な)さざれば胡(なん)ぞ成(な)らん。」と読み、「周囲の状況などをよく考え思いめぐらさなければ獲物を捕らえることはできない。思案ばかりして、成果をあげようとする行動を起こさなければ、決して成果を得ることはない。」という意味です(出典:『書経』太甲下篇)。



大塩平八郎
「心陀之喻(ゆ)良知説」
(書軸)

大塩平八郎(おしお へいはちろう)
1793(寛政5)年～1837(天保8)年、江戸後期の大坂で、大坂東町奉行組と力でありながら、天保の飢饉に際して民衆救済のため徳川幕府に反乱を起こしました。
平八郎は、役人ではあるが、学者という側面も持ち、儒学の一学派である陽明学を研究するとともに、洗心洞(せんしんどう)という私塾を開き子弟の教育にあたっていました。平八郎が乱を起こしたのは、「言動一致」の陽明学の立場からすれば論理的に必然のことだといわれています。



大塩平八郎
「自明軒
天保丙申之歲春三月
洗心洞主人」
(扁額)



福聚・宝珠 茶掛軸

「珠光日書之 前大徳東海明道」の落款があります。
「珠光」は、茶道の祖「村田珠光」のことです。「珠光日書之」は珠光の命日に記したという意味です。
「前大徳東海明道」は、前の「大徳寺」という意味です。



谷文晁「羊画」(書軸)



谷文晁「山水画」(書軸)



谷文晁「龍昇天の図」(書軸)

谷文晁(たに ぶんちょう)

江戸時代後期(1763(宝暦13)～1841(天保11)年)の画家。古画の模写と写生を基礎にし、諸派を折衷し南北合体の画風を目指しました。その画域は山水画、花鳥画、人物画、仏画にまで及び画様の幅も広く「八宗兼学」とまでいわれる独自の画風を確立しました。松平定信の近習としても仕え、後に関東南画壇の重鎮となりました。

利用案内

一般公開

毎月第一日曜日・良斎記念日(5/4)
午前9時～午後3時

入場には、入場料が
必要になります。
※中学生以下は無料

見学のお申し込みはお気軽にご連絡ください。(事務局/090-1001-0709)

ACCESS MAP



JR多度津駅から 車…約12分

JR海岸寺駅から 徒歩…約30分 車…約5分

● 高松自動車道 善通寺ICより車で約17分



鉄道からのアクセス



岡山駅にて乗り換え JRで多度津駅
または海岸寺駅へ …… 約1時間30分～2時間



飛行機からのアクセス



高松空港より車で約1時間



リムジンバスで高松駅へ …… 約50分
JRで多度津駅または海岸寺駅へ 約30～40分

貴重な文化遺産である林求馬邸及び書画を、将来にわたって保存、活用していくため、
多くの皆様のご寄附等によるご支援をお願いします。歴史好きな方、管理や清掃などに
ご協力いただける方など、会員・ボランティアを募集しています。(事務局/090-1001-0709)